

○委員長（松宮 健治）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

---

1 閉会中継続審査事件

- (1) 陳情第19号 福島第一原発事故による自主避難者に対する支援を求める陳情（第1項第2号・第3号・第4号）

○委員長（松宮 健治）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、前回の委員会において理事者に出席をいただき、陳情項目に関する支援策等について説明を受けた上で審査を行った。経済部の説明をもとに陳情項目に関する支援策等について正副で資料を取りまとめ、お手元にお配りしているので確認願う。それぞれ項目ごとの支援策という部分である。前回口頭で話もあったところをまとめたものである。
- ・ ただいまの資料内容も含め、本件にかかわって各委員から何か発言はあるか。

○北原 善通委員

- ・ 陳情第19号 福島第一原発事故による自主避難者に対する支援を求める陳情書の内容を読ませてもらった。継続にしておくべき事項と思うが、市民部のほうで扱っていること等もあるが、一応私どもの考え方を簡単に申し上げておきたいと思う。
- ・ なぜ原発事故による自主避難者のみに支援をしなければならないのかということが第一点にある。それから、生活保護制度や雇用相談等の既存の制度で対応すべきではないかということが二点目に挙げられると思う。それから三点目には、自主避難者は、言い方を変えれば、一応自主的、自主的にこちらに避難して来た方々なので、ちょっと冷たくとられると損もするが、個別自治体でかわいそうだからといった理由だけで、その人達だけを市が支援するというのは、公平性や公正性といった部分においておかしいのではないかと。やはり国なり東電がきちんと対応すべきであると。それと、都道府県レベルでの対応であれば、これは仕方がないと思うが、このようなことと、それからまだまだ中にはこれはやはり考えてあげるべきというものもあるが、ちょっと角が立った言い方をすると、このようなことで継続でいいと思う。
- ・ 市でも当然市民部で看板も上げてやっているが、委員会としてはこういう考え方でと思っている。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 他に発言あるか。（発言なし）
- ・ 発言を終結する。
- ・ これより本件に対する協議を行う。陳情第19号の各項目について、順次各会派の賛否およびその理由をお伺いする。なお、継続審査を主張する場合には、継続とする理由についても発言願う。また、議運の申し合わせにより、不採択の決定をした陳情については、賛否の理由に係る発言の記録を陳情者へ送付する扱いとなっており、この協議の場での発言を送付する扱いとしたいと思う。御配慮の上、

発言いただくようお願いする。順次賛否をお願いする。

○松尾 正寿委員

- ・ 今の発言のとおりで、プラスして被災者に支援をするのも結構だが、函館市民のサービスを超えてまでということには、なかなかこれは厳しいのではないかという考え方もあるので、これは継続でお願いしたいなと思っている。

○北原 善通委員

- ・ 最初に全部申し上げたとおりである。

○斉藤 佐知子委員

- ・ この大震災で福島原発で被害に遭われた方は、本当に大変な思いをしているというのは非常によくわかる。ただ、函館の市民とやはり同等の支援というか、同等のサービス、そこを超えてということが非常に難しいというか、どうなのかなというふうにも思っているところがあるので、うちも継続をお願いする。もう少し。

○小林 芳幸委員

- ・ この問題に関しては、若い方だとか、お子さんのいる世代だとか、本当に大変な思いをされている方がたくさんいらっしゃるって、大変苦労されている方も多いと思うが、東電との問題だとか、その辺がまだはっきりされてない部分だとかもあるので、なかなか市としての現状というのは今段階では本当に難しいというふうに感じられるので、公明党としても継続をお願いする。

○井田 範行委員

- ・ 私も、やはり避難されて大変御苦労されているということで、その辺については十分に理解はする。ただ、ここにある第2項、第3項、第4項、この間の委員会でもいろいろ議論があったが、十分、不十分の話はあるだろうが、一定程度の支援策は行っているというスタンスがあるので、その辺を含めて、今後もう少し時間をかけながら判断をさせていただきたいなということで、同じく継続で。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 私は、避難されている方々が本当に大変な思いでいるし、この人達には全然責任はないわけで、その中でこういう苦労をされてるというあたりでは、本来は政府がきちんと対応すべきことだと思うが、函館市として、函館市議会として、きちんとこういう方達に誠意を持って接するべきだというふうに思っているので、この項目に関しては、私も被災されてきた若い方からいろいろ話を聞いているが、やはり不十分なところがたくさんあって、そういった意味では私は第2項、第3項、第4項の項目については賛同したいというふうに思っている。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 今、市政クラブ、民主・市民ネット、公明党、市民クラブは継続で、日本共産党はマルということだが、4会派が継続を主張しているが、どうするか。継続というふうになるか。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 継続と賛同してもいいが、いつまで皆さん継続にするのか。私は、この問題はもう1年5カ月たっていて、本当に深刻な問題だというふうに思っているし、下手に継続で延ばすことは失礼なことではないかなと思っているので、そこをちょっと会派の皆さんにお聞きしたいと思うが。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 他の会派の方々、御意見あるか。

○北原 善通委員

- ・ 陳情内容の第4項に、起業の援助、避難者で自営業を営みたいと欲する者への資金援助とか、このような問題等もあるので、そういうこと等も考えればという、ればの発言がうちの会派でもないわけではない。ただ、今すぐやるというふうになれば、うちのほうでは先ほど申し上げた中で、態度は鮮明に持っている。けども、まだちょっと落ちこぼれがあるのではないかと。こういうことで継続を申し出た。だから今即決すれば、答えは持っている。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 4会派継続だが、いろいろ御意見では、ある程度の方向は見えているのかなという気はしたが、ただ、もうちょっとここで継続して時間を置きたいという多くの会派の意見かなと思っている。最終的には、次回の委員会となると9月の定例会だと思うが、1カ月近くあるので、次回で終結の方向ということ、確認はできないが。

○松尾 正寿委員

- ・ 補足するが、この定例会中ということで理解してもらえればいいと思う。うちは、これから会派の会議もあるので。結論は、この定例会中には出したいと思っている。

○北原 善通委員

- ・ 他の委員会にまたがる部分もあるので。うちだけで結論を出せるのであれば、すぐできる。

○市戸 ゆたか委員

- ・ この定例会中であれば、私も継続ということで賛同する。

○委員長（松宮 健治）

- ・ ここでははっきり結論は出しにくいですが、9月の定例会中で方向を出していくと。他の総務、民生のほうにもかかわるので、そこでも調整しながらということで終結していきたいと思うが。

○井田 範行委員

- ・ 今の落としだが、定例会中に最大限の努力をするということで。ありきでいってしまうと、またいろいろあるので、最大限の努力をするという意味確認で、よろしく願います。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 今の御指摘のとおり、とにかく定例会中になんとか努力してということで確認をしたいと思うが、よいか。（「いいんじゃないですか」の声あり）では、今回に関しては継続ということでよいか。（異議なし）
- ・ それでは、陳情第19号 福島第一原発事故による自主避難者に対する支援を求める陳情、第1項第2号、第3号、第4号の各項目については、次回以降も引き続き審査をするということで確認をさせていただく。
- ・ 議題終結宣告

(1) これからのまちづくりを見据えた路面電車事業の活性化方策について

○委員長（松宮 健治）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、前回の委員会において、理事者に出席をいただき、当市の現状把握を行うとともに、他市での取り組み事例の資料確認、さらには先進地である富山市および高岡市に対して行政調査を行うことを確認し、先般、調査を実施してきた。各委員においては、お疲れ様であった。両市とも非常に参考となり、大変有意義な調査であったと考えている。行政調査報告書については、先日、各委員にお配りをさせていただいた。
- ・ また、前回の委員会で要求のあった資料について、年度別運輸成績の推移（平成22年度函館市企業局事業概要抜粋）として、また、各軌道事業者に対して実施した路面電車事業の活性化方策にかかわるアンケート調査結果の以上2点についても、先日、各委員にお配りをさせていただいた。
- ・ 各資料については今後の調査の参考としていただければと思うが、ここで、資料にかかわって何か発言はあるか。（発言なし）
- ・ それでは次に、お手元に配付している資料、所管事務調査事件の調査の進め方について確認願う。これまで、当委員会では、1 当市の現状把握、2 他市の取り組みについての調査、3 先進地の取り組みについての行政調査を実施してきたが、今後は、まず、4 当市、他市、先進地における取り組みの比較、分析および当市の抱える課題、問題点の検討、それから、5 当市における路面電車事業の活性化方策についての検討を行い、6 調査結果の取りまとめという流れで、本件調査を進めてはどうかと考えている。まず、この調査の進め方について、何か発言はあるか。（発言なし）
- ・ それでは、そのように確認をさせていただく。
- ・ それでは、本日、それから次回の付託委員会において、進め方の4および5にかかわり、各委員から発言をいただき、協議を進めていきたいと思う。
- ・ 4と5は非常に関連している部分があるので、行政調査の感想なども含め、各委員から、ざっくばらんに御意見、御発言をお願いしたい。
- ・ 特に、事務局から案内があったと思うが、富山市長が来て講演会もあるし、最近新聞紙上では、未来大と幾つかの大学で市電に対するさまざまなフォーラムもあるということで、非常に今、当委員会が扱っている事例は大きな流れの中にあるのかなと思うが、何か発言あるか。

○北原 善通委員

- ・ 年度別の運輸成績の推移などを見て、かつては大して使われていた。あの電車、乗るときは3箇所から乗る。だけど、降りるときは真ん中と後ろと、車掌がいる。そして鞆を上に入れて、もう人混みの中をようやく通る。だから、昭和39年は東京オリンピックのあった年だが、このときは約5,000万人乗っている。それはそれは、すごい。大正2年なので、1913年。そしたら来年で100周年になる。富山のほうでは全然考えてはいないと言っていたが、やはり当市としては100年ということになると、ちょっと重みがある。当然100周年もやってもらいたいと思う。
- ・ また、どうせ新幹線が来ると、今度電車ということになる。それこそ空港まで電車ということまで考えられるかどうかかわからないが、だけど今、車がこれだけ発達していると、またバスと競合にも

なるから、下手に軌道敷地を引くと、なんでバスを民間にやったんだということにもなるので、競争的なことを考えると現状しかない。

- ・ 脱線して大変悪いが、谷地頭はなぜあそこで終わりなのかと。それこそ温泉がある。温泉までなぜ電車を引いてなかったのか、これからも引く気はないのかということがあるので、やはり電車事業というのは、やる気になればやる。とにかく、電車についての皆さん方の若い人達の話し合いというのは欲しい。

#### ○齊藤 佐知子委員

- ・ 高岡市と富山市を今回行ってきたが、本当に参考になったというか、よかったと思った。
- ・ 高岡市については、中心市街地への買い物に行くとき安い券がもらえるとか、単なる路面電車の活性化だけではなく、非常にほかのこととも関連させて考えているなというふうに思った。
- ・ もう一つ簡単に言わせていただくと、富山市に関しても、説明を聞いても、富山市としてのまちづくり、そしてそこにあつての中心市街地のあり方、その中で路面電車をどういうふうに活性化するかというふうに非常に系統立てられてというか、非常にそこはしっかりとつながって、ものが考えられているというのが富山市の感想である。また、その評価の仕方も、きちんと富山市はアンケートをとったり、数をきちんと出していたりして、非常に評価の仕方も適切だなというふうに思った。
- ・ 今ここに書かれている調査の進め方に、均一の運賃やICカード導入の検討などという話も出ていて、今函館市の交通部、この間新聞に載っていたが、経営計画に外部評価を入れて、そちらでも今、意見を取りまとめてもらい、今言った均一の料金の導入のことだとか、いろんなことを何かそちらでも話し合いをしているようである。なので、外部評価の進捗状況というか、そのあたりを企業局から聞くのがいいのか、あるいはそういう外部評価の委員とちょっと意見交換をしてみるだとか、せっかく同じような方向でやっているのであれば、そちらからのいろんな意見なども聞いてみるのもいいのかなというふうに思った。

#### ○井田 範行委員

- ・ 私もまず感想から入りたいが、この間、高岡と富山に行って、高岡はあらゆる取り組みをしているというのが率直な印象。ただ、先ほど北原委員も話したが、電車事業が増えたことによってバス事業が減っているという結果が出ていると。あれは本当に地域の公共交通のあり方という部分の中では非常に難しさ、まあ今回のテーマは電車事業の活性化ということだが、その辺は十分に考えながらやらなければならないなど。あと、個々の単発的な取り組みとしては非常に、先ほど齊藤委員も言ったとおり、おもしろいなという部分は非常に強く感じた。
- ・ それともう一つの富山、公共交通全体、まちづくりということで、かなり完成度が高い。なので、明後日、市長が来ていろいろ話をするというので、この間は行政マンから話を聞いたので、政治家としての目線からのコメントを非常に楽しみにしている。特に、やはり富山で印象的なコメントというのは、あそこはある程度電車事業は人が増えたが、バス事業は減っていない。なぜかと聞いたら、結局今まで使わなかった人、それが高齢者のイメージで話されて、そういう方にターゲットを向けるということで、函館も結構高齢化率が高いので、バスの人が電車に来て、電車事業だけ見るといいだろうが、全体の公共交通では、何の意味もないとは言わないが、メリットが小さい。やはり使っ

てない人、今まったく使わない人にぜひ利用していただく。それは、利便性の向上の中に、先ほど話に出た地域の商店街との連携ということをいろいろ考えていくと、やはり中心市街地活性化の話ともかなりリンクしてくる部分もあるのかなということ強く感じた。それと、富山、JRの鉄道を電車に、あれは電車と鉄道事業がおそらく混在していると思うが、今後の函館のまちづくりの中で非常にヒントになる部分もあったのかなというふうに感じている。

- ・ 今後の進め方だが、私の言った話を全部やっていくとテーマからかなり外れていく部分も出てしまうが、やはりこの電車事業の活性化だけではなく、中心市街地の部分も多少入れながらやっていかないと、どうしてもこじんまりとした、これだけやればいいでしょう、場当たりのと言ったら言葉はよくないが、場当たりの形のものになってしまうので、そこも重要ではあるが、こういうことも視野に入れたらというまとめとか落としにしていってほしいと思うが、より効率的な、効果的な提言ができるのかなというの強く感じた。

#### ○委員長（松宮 健治）

- ・ これについては、きょうで終わりではなく、次回の委員会にもつなげていくという部分なので、これからフォーラムだとかいろいろ見て、また我々が視察をしたことでさらに考えを深めたものは、次回の委員会でまた提案してほしいと思っているが、今の時点で感想も含めて、ほかの方々はどうか。

#### ○小林 芳幸委員

- ・ 富山と高岡市を見学させていただき、函館市にとっての電車というと、線路がもう決まっているので、それをどうやって活性化させるかということで考えると、参考になったのは、まずはそこまで車で来て、それで乗り込むというような形で、どこかに駐車場だとか駐輪場というものをつくっていかなければ、線路の近隣の人しか使用しないという現状なのかなと思う。富山市と高岡市で駐輪場と駐車場の部分も勉強させていただいたので、その辺も函館市としてもこれから取り組んでいくことを考えていったらいいのではないかなと思う。

#### ○見付 宗弥委員

- ・ 今までの皆さんの意見と大分重複する部分はあるが、まず、まちづくり、特に公共交通ということで、電車、バス、自家用車、そういうものを含めた中で、じゃあ路面電車はどんな形、どういう位置を占めるか、どういう人を対象にするかということで、まちづくりの市民の足として進められてるなということは、富山と高岡で共通していると思っている。それで、函館市についても、例えば函館市の新しい都市計画マスタープランの中でも路面電車の通っている地域の居住人口を増やすということを書かれているし、あるいは中心市街地活性化基本計画の素案の中でも、大門と五稜郭、両方、鉄アレイ型ということになったが、ポイントはやはり路面電車で両方つながっているということがあると思うので、そういう意味では中心市街地活性化、函館の新しいまちづくりという観点をしっかりと含めながら、もっと具体的に言うと、例えば都市計画マスタープランの中で路面電車はどんな形に位置づけになってるか。あるいは中心市街地活性化の素案の中では路面電車はどのような位置づけになっているかということも、ちょっとずつ含めながら路面電車の活性化を考えていってはどうか。今後の進め方も含めて、感想と私の考え方は以上である。

#### ○市戸 ゆたか委員

- ・ 行ってみて非常に参考になって、富山もライトレールに乗ってみてよかったなというふうに思っている。それで、やはり今後新幹線が来るということも含めて、函館市もそういう目で公共交通を考えていかなければいけないなというふうに思った。あと、生活、市民の足を確保するということでは、いろんなことを考えているし、それこそさっき言ってた中心市街地にどう市民を誘導させるかということも総合的に考えられたまちづくりなんだなというふうに思ったので、まさしく経済建設常任委員会として、まちづくりの視点での路面電車の公共交通を考えていくきっかけになったなというふうに思っている。細かいことを言ったらいっぱいあるが、非常に参考になって、29日の富山市長の講演もすごく楽しみにしている。
- ・ 今後だが、先ほど斉藤委員が言っていた内容も非常にいいと思っているし、あと中心市街地の経済部とも懇談したいなと思ったり、交通部とも懇談したいなと思って、その中からまた新しい発想も出てくるかなというふうに思っている。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 今の経済部や企業局交通部との懇談はどうするか。

○北原 善通委員

- ・ 今話があったが、こないだ富山に行ったときも、徒歩で中心市街地を通った。人が一人も歩いていない格好ですよ。できあがってしまえばああいうものである。人が通ってなくても中心市街地だよ。全然ものを買うところではない。売るほうだって、人がいるのかいないのかわからない。そういうこと等も念頭に置きながら議論をするべきだと思う。

○委員長（松宮 健治）

- ・ あと、きょうの段階で皆さんの意見、感想等どうか。（発言なし）
- ・ それでは、本日はこの程度とし、改めて配付資料等も確認していただき、次回の付託委員会において引き続き協議していきたいと思うので、各委員の検討方よろしく願います。
- ・ 議題終結宣告

3 その他

○委員長（松宮 健治）

- ・ 議題宣告
- ・ 閉会中継続審査および調査の本会議での報告については、これまでの協議の内容を踏まえて作成したいが、その内容については、委員長に一任願いたいと思うが、ご異議ないか。

○井田 範行委員

- ・ 今の皆さんの話を総合していくと、前回、斉藤委員から中心市街地を調査事件にという話が出された。そのときはまだ気運が盛り上がり、ただ、きょう、今この場面を聞いていくと、みんな何か中心市街地の話とこう、ただ路面電車の話からずれていく可能性も怖いので、だから、どこかその辺をうまく、あくまでも軸足は路面電車だとはいいながら、この辺何かこう、この間斉藤委員が言った部分を加味しながら、正副で考えていただけないかというのは失礼か。何かそういう進め方のほうがよいような。ただそこだけではなく、この間斉藤委員が言った部分を加味しながらやっていくと。そう

いう流れができてきているので。

○北原 善通委員

- ・ 電車だけであれば、やめろという議員もいるし。

○委員長（松宮 健治）

- ・ 中心市街地活性化の方策についてもうちの所管なので、どちらも扱うことに関しては異論がないところだと思うが、その辺はちょっと正副で調整をしてみたいと思う。
- ・ 委員長報告はそういうことを踏まえて報告をしたいと思う。（異議なし）
- ・ その他、各委員から何か発言あるか。（発言なし）
- ・ 散会宣告

午前10時35分散会